

二〇二一年度八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科

一般選抜（一期）

国 語

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたときは、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
5. 問題冊子は持ち帰ってよい。

一次の文章を 読んで、後の問いに答えなさい。

この数カ月、新型コロナウイルスの感染予防策として、持ち帰り用の食品容器や使い捨ての弁当箱など、プラスチック製品を利用する場面が増えた。

だが、プラスチックが①地球環境や生き物を脅かす存在であることに変わりはない。②この風潮が定着すれば、ウイルスとは違った意味で社会をむしばむ。

感染症対策と並行して脱プラの取り組みも着実に進める。そのことを忘れてはならない。

世界のプラスチックごみは年に数億トンにのぼり、少なくとも800万トンが海に流れ込んでいると推定される。aホウチすれば、今世紀半ばには海洋プラスチックごみの量が世界中の魚の総重量を超えてしまうとさえいわれる。自然の中に蓄積したプラスチックごみは、生態系を破壊し生物多様性を損なう。海を漂ううちに波や紫外線で砕かれて微小になり、食物連鎖を通じて人体に悪影響を及ぼす懸念もある。

だからこそ1年前のG20大阪サミットで「2050年までに新たな海洋汚染をゼロにする」との目標がまとまり、国際社会はプラスチックごみ削減へ足並みをそろえることになった。飲食店がプラスチック製のストローや食器をbハイシしたり、スーパーのレジ袋規制が始まったり、身の回りでも脱プラの動きが広がり始めた。食べ物の持ち帰りや宅配は世界各地で広がった。cスイショウされていたマイバッグやマイボトルをめぐっても、本人だけでなく店員も触れることが多く、互いに感染リスクがあるなどとして、使用を控える動きがみられる。

朝日新聞が東京、横浜、大阪などの自治体に聞いたところ、3月以降に家庭から分別回収された容器包装プラは、前年の同時期より約7〜12%増えた。緊急対応としてやむを得なかった面があるとはいえ、

③この傾向に歯止めをかける必要がある。

プラでなく紙の容器を使ったり、扱いに注意しながら客が持参する容器に食品を盛りつけたりしている店もある。プラスチックのリデュース（削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）という「3R」の原則を再認識して、工夫を重ねたい。

政府の責任は重い。昨年まとめたプラ資源循環戦略は「30年までに使い捨てプラを25%削減する」とうたう。先月、環境省と経済産業省は合同の審議会を設け、具体策のdケントウを始めた。コロナ時代にどうやってプラ削減を進めるかというeカンテンからも、議論を深めてほしい。

日本は、1人当たりの使い捨てプラごみ排出量が米国に次いで多い。これを減らすことは地球全体に対する責務である。

（朝日新聞社説 2020・6・29）

問一 傍線部aくeのカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部①「地球環境や生き物を脅かす」とあるが、その具体的内容を述べている箇所を二つ、それぞれ二〇字以内でそのまま抜き出しなさい。

問三 傍線部②「この風潮」について、その指示内容を答えなさい。

問四 傍線部③「この傾向」について、その指示内容を答えなさい。

問五 次の文が入るべき箇所の直後の八字を抜き出しなさい。

その矢先に起きたのがコロナ危機だった。

問六 本文の要旨を三〇字以内で答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

しばらく前に、「自分探し」という言葉が流行したが、私にとっては「自分をつくる」という表現の方がしっくりくる。外のどこかに自分を探しに行くというよりは、経験を蓄積し積み上げていくというイメージの方が、自己イメージに近い。もちろん、二つの表現の言わんとしていることには共通点もある。それは、出会いが人をつくるということだ。

自己や自分というものは、自分ひとりで作るものではない。他者との関係の中でつくられていくものだ。aユイイツ絶対の自己というよりは、関係の網の目の中で、様々な側面が形づくられていく。小説や映画でヒットした「羊たちの沈黙」のモデルとなった捜査官が書いた『FBI心理分析官』（ハヤカワ文庫）は、異常殺人者たちのbスガオに迫った手記だが、そこでは、そのような殺人者たちには他者との関係が取れていないという共通点があると書かれている。他者とい関係構築していくことができれば、そこまでの異常殺人を起こすことはないだろう、と著者のレスラーは言う。

読書は、もちろん知性や情感を磨くものでもあるが、同時に、①複数の優れた他者を自分の中にすまわせることでもある。情報を手に入れることだけが、読書の主目的ではない。

生身の人間の価値観を自分の中に取り入れ、自分の幅を広げていく。凝り固まった狭い考えに閉じこもらずに、優れた人間の価値観を様々な受け入れる。そうした作業を地道に続けることで、社会常識から隔絶した孤立的な空想に陥ることを防ぐことができる。もちろん本によっては、犯罪につながるような空想をcカシキするようなものもある。その意味では、本にまったく毒がないとは言えない。自殺の仕方や殺人の仕方までを書いた本が出ているくらいだ。しかし、ここで強調したい読書は、そのような種類の本のことではない。十分幅広い読書をしていれば、そのような本を絶対視することも少なくなる。

その意味では、種類の違う複数の本を幅広く読みつづけることが重要だ。本棚を見ればその人がわかる、と言われることがある。その人自身の考えを直接聞くよりも、読んできた本のラインナップを眺めさせてもらえば、およその見当がつく。友達を見ればその人がわかるといったことと同じような意味だ。

自分の本棚を持つのは楽しい。自分の世界が広がっていく様子が手に取るようにわかるからだ。音楽に関しては、好きな音楽CDが自分の棚に並んでいく喜びは、多くの若い人が知っている。しかし現在、自分の本棚を持っていない人も多い。ここで本棚としてイメージしているのは、横が一メートルほどで、縦が六段ほど入る本棚のことだ。一家四人であれば、少なくとも四つの大きな本棚が各人用にあつてしかるべきだ。自分の今まで読んできた本が見渡せるというのは、非常な喜びだ。過去の自分と現在の自分が、そこでは繋がりが合っている。自分の本棚には、自分が過ごしてきた読書の時間が詰め込まれている。優れた著者との出会いが、これまでの自分の人生が有意義であつたことを、自分に知らせてくれる。

優れた著者の本を読んでいるときの自分は、自分でも肯定しやすい。自分を肯定する自己肯定感とは、自身に向き合うときよりも、何か素晴らしいものに向かっているときに感じやすい。好きな音楽を聴いているときの自分を好きだというのも、Aの一つではある。しかし、読書の場合は、自分がより積極的にエネルギーをかけなければいけない行為だ。そうして出会えた人物との時間は、苦勞して得たものだけに、自分でも充実感がある。

②本は単数よりも複数の方が威力が増す。私は高校生の頃、自分のベッドの枕元の棚に本が一冊ずつ増えていくのを見るのが好きだった。その頃は、まだ本棚に至る前の段階だった。ブックエンドに一冊ずつ挟んでいくのだ。当時は、本は読みきらなければいけないものと思っていたので、読み切ったBが一冊一冊に詰め込まれていって、眺めているといとおしくなつた。

本来は過ぎ去ってdアトカタもなく消え去ってしまふ砂のような時間が、しっかりと本という形で

そこにeギョウシユクされて残っている。そのCがうれしかった。

(齋藤 孝『読書力』)

問一 傍線部aとeのカタカナを漢字で書きなさい。

問二 空欄AとCに入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 安心感
- イ 安定感
- ウ 充実感
- エ 危機感
- オ 責任感
- カ 孤独感
- キ 自己肯定感
- ク 満足感

問三 傍線部①「複数の優れた他者を自分の中にすまわせること」とあるが、それはどのようなことか。本文中の言葉を用いて四〇字以内で説明しなさい

問四 傍線部②「本は単数よりも複数の方が威力が増す」とあるが、このことについて、本文の内容を踏まえ、えたうえで、あなたの考えを一〇〇字以内で述べなさい。

三 次の①～⑤の三つの空欄に共通する漢字を入れて、熟語を作りなさい。漢字はあとの語群から選び、記号で答えなさい。

- ① 激（ ）・精（ ）・奮（ ）
- ② （ ）・確・端（ ）・標（ ）
- ③ （ ）・択・（ ）・算・伐（ ）
- ④ （ ）・報・不（ ）・（ ）・（ ）
- ⑤ （ ）・点・（ ）・下・（ ）・細

ア	零	イ	吉	ウ	通	エ	流	オ	闘
カ	的	キ	満	ク	採	ケ	励	コ	正

四 次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。（解答欄に二字記入）

- ① 理路セイゼンと自分の主張を述べた。
- ② 無病ソククサイであることが何よりだ。
- ③ 何度意見してもバジ東風だ。
- ④ 一触ソクハツの緊迫感がある。
- ⑤ オンコ知新の精神で学ぶ。